

一般財団法人 日本尊厳死協会 会報

リビング・ウィル Living Will No.157

これから必要な二・五人称の視点



主な内容

- インタビュー 柳田 邦男 **02**
- 財団法人日本尊厳死協会スタート **06**
- 活動広がる「LW 研究会」 **07**
- 2014 年 ご遺族アンケート結果 **08**
- 臨床宗教師が医師とチームを組む日 **12**
- LW 活動+1 原爆ドーム保存 **13**



協会会員:12万0797人
(3月2日現在)

長尾 先生のエネルギーッシュな活動には目を見張る思いです。近況をお聞かせください。

柳田 あと1年余で80歳です。この半世紀、物書きとしての仕事をまとめなければと書いているものが4つあります。そのうち3つは、日航ジャンボ機墜落事故(1985年)、JR西日本福知山線の脱線事故(2005年)、3・11大災害と原発事故(2011年)。これらの中底にある「悲惨な死」などを長年追いかけてきたのですが、ご遺族や奇跡的に助かった方、避難した方が歳月をどう生きてきたかをとらえたのです。

もう一つは、この50年間の仕事の総括として、科学主義、法規主義の現代に人間性を取り戻すための『二・五人称の視点』という本です。

もう一つは、この50年間の仕事の総括として、科学主義、法規主義の現代に人間性を取り戻すための『二・五人称の視点』という本です。

長尾 見つめてこられたなかで新しい発見はあつたのでしょうか。

柳田 57歳のときに息子を亡くしました。脳死状態の11日間、ベッドサイドで魂の会話をして気づいたのは人間の命、生と死には人称性があるということです。

人間の個性を回復する

見てこなかつた。その欠陥を改めるにはどういう視点が必要か。

たとえば障害を持つ子が生まれた場面で、産科医が客観的に「染色体異常でダウン症です」と説明するだけだと、その冷たさに若い母親は突き離され親子、心中すら考へてしまう。米国ではこう説明すると聞きました。「障害をもつお子さんでもあなたが育てられる能力と資格を持つと神様がみてくれ育てましょね」。

これが二・五人称の視点。法律や制度、科学主義のなかで排除されてきた人間の個性や個別性を回復するには、根底から思想を変えなくてはいけない。二・五人称の視点を社会に浸透させるとこの国は変わり得ると考え、『二・五人称の視点』という本をいま書いているのです。

長尾 もう忘れ去られようとする10年前、30年前の人々に心を寄せるのはすごいことです。そのエネルギーの原点はどこに。

柳田 (笑いながら)自己分析すると生まれ育ちかなあ。北関東で育ち、小学生時代に父、次兄を亡くしました。農家の母は庭先に畑をつくり、最低

Interview

これから必要な 二・五人称の視点

柳田 邦男

ノンフィクション作家。災害、事故、病気など「いのちの危機」をテーマに執筆活動半世紀、JR福知山線脱線事故の検証や、福島原発事故の政府事故調に携わる。『言葉が立ち上がる時』『新・がん50人の勇気』など著書多数。



とでした。

たとえば、がん末期で標準的治療法に適応しなくなれば医師は「もうすることがない」となります。科学的根拠をもつ客觀性というか、三人称の視点です。

しかし、治癒の見通しがなくなつたときにこそ患者さんは一刻いつどきが大事な時間になる。どう最期を過ごしたいのか、家族との関係をどうしたいのか。一人称、二人称の視点からの個別性の高い問題ですが、患者に寄り添うことができれば本当にその人が納得できる。長尾先生がいうような平穏死が実現できます。

それを一般化するには三人称を捨てるのではなく、それを基盤にしながら一人称、一人称の人に寄り添えれば人間対人間として患者を支える取り組みが見えてくるのではないか。そこで『二・五人称』というキーワードをつくりました。

長尾 私も3・11大災害の支援活動に参加してその必要を感じました。

柳田 実はこれは終末期医療だけではなく、あらゆる場面で問われることです。公害、災害、戦争、社会問題のなかで國家や行政が弱者の立場に立つてものを

変わりゆく終末期医療のあり方に新しい視点を探ったインタビューは、健康法にまで話が及びました。

(1月22日、東京都内で)

長尾 和宏

医師、兵庫県尼崎市の医療法人裕和会長尾クリニック院長として在宅医療、看取りに取り組む。日本尊厳死協会副理事長、東京医科大学客員教授。著書に『「平穏死」10の条件』、『家族よボケと闘うな! (共著)』など。

健康法は母からの“直伝”

柳田 まずストレスをためない。私は生き方として二正面作戦というか、たえず2つの選択肢をもつようにしています。たとえば突然死にも、がん死にもつながる。時間があるがんを望むけれど、突然死が明日来るかもしれない。その前に何をしておくべきか、できるだけ納得感を得られるようにしておきたい。

長尾 最近、認知症の本を書きました。

認知症800万人時代を迎えるいまは、認知症が怖くてリビング・ウイルをど

いう人もいます。
柳田 2つの選択肢といいましたが、
私の選択肢に認知症は入ってなかつた

ですね。私なりに頭を使い続け、「自分はならない」と勝手に決めています。神経は使わないと衰えるから、筋肉を動かす神経が象徴的ですが、よく歩かないといけないと言います。

は80歳すぎでも階段を2段上がるとか、それはやり過ぎとしても(笑い)、

まず体を動かすことは脳を活性化させ
る。私は現場取材など仕事でどこでも
出かけますが、これ自体が健康法その
ものです。

長尾 そういうえば日野原先生は各地飛
び歩いていますね。

柳田 それともう1つは食事です。70
歳代になつて、特に3・11の仕事を終
えない限り、好きなビールもワインも
絶っています。その代りしつかり野菜
を摂ります。朝起きると台所に立つて
冷たい水で野菜を洗い、7・8種類の
野菜で丼いっぱいのコンビネーション
サラダをつくり、サンドイッチもつく
ります。

長尾 えつ、ご自分で、ですか。

柳田 そうです。朝起きたときどう体
を活性化させるか。とにかく台所に立

柳田 80年代には寿命は伸びても80歳半ばが限度かと言われましたが、いまや遺伝子をさわるほど医療技術が進み、食生活も変わつてくると「誰もが100歳」時代の可能性はあるでしょうね。科学的根拠はないのですが、僕の勘は当たりますから(笑い)。

じゃ、それで幸せになれるかな?

人が100年以上生きた時、それに応じた人生観や生き方という精神性の向上がないと。しかも、対応できる社会づくりに100年はかかりそう。

2つですが(笑い)。1つは、死にゆくときにはいかに平穏に旅立てるか。もう1つは、死を前に自分の人生に納得できる最期の日々の過ごし方。僕にとっては人生の納得、死を間近にした日々をどう過ごすか、これの方が大事だと思っているのです。

20年ほど前、日本医学会総会で講演したときに「尊厳死」と「尊厳ある死」について問題提起をしたことがありまです。尊厳死という言葉は、安楽死に近いような、痛み苦しむことなく死ぬといふような最期の時の平穏さをいつています。

本当は、そこだけが死ではない。死を前提にした人生のあり方、もつと限定的にいうと先が見えてきた時の生き方、自分はこれだけをしたとか、誰



卷之三

柳田 実は昨年、熊本市での講演で『最後の刻まで よりよく生きるための「十の心得』について話したら、市がこれはいいというので私の名前を付けたポスターをつくり、保健所などに張り出しました。

第一条として「動かせる身体機能と知的働きを活かす」からずーっと並び、第九は「ユーモアの心を忘れない」、最後の10番目に「次の世代に遺すものを考える」。

この歌詞にすごく感動しました。震災があるうと、がんで亡くなろうと、自分の言葉とか生き方が次に生きる人の心につながっていくなら、人の精神性のいのちは、後を生きる人々心のなかに生き続け、それぞれの人生を膨らませることができます。それを私は「死後生」と呼んでいます。昨年9月、がんで亡くなられた黒田裕子さん(※)にも最期を迎える病床で伝えた言葉です。

長尾 黒田さんは私も敬愛する一人で、教わることが多かった方です。

柳田 最後にホスピスに見舞つたとき、率直に申し上げました。「黒田さん、あなたは決して死にません。私や仲間たちのなかでいつまでも生きていきま

柳田 えつ、ご自分で、ですか。
そうです。朝起きたときどう体
を活性化させるか。とにかく台所に立
つ。実は小学生時代に食糧難で母が野
菜畑をつくり、手伝うのが好きだった
から、抵抗感がないですね。

長尾 話が変わりますが、正月の
NHKテレビ番組で「寿命革命」を
見ました。いま100歳長寿者は
5万8千人を超しますが、老いを食い
止める遺伝子を機能させるなど医学・
医療技術の発達で誰もが100歳長
寿は当たる前の時代がくるという
話が変わりますが、正月の

最弱の山々を登る

長尾 延命技術も含めて医療技術は加速度的に発達し、長寿の限界はたえず動いています。実際、105歳でがんが見つかったとか、心筋梗塞になつたとか、でもまあ元気な方がいます。でも治療をしているうちに管だらけになつっていく。長寿社会と終末期医療についてお考えを聞かせてください。

を前提にした人生のあり方、もつと限定的にいふと先が見えてきた時の生き方、自分はこれだけをしたいとか、誰に会つておきたいとかいろんなことに絞られる。それを全うできた時にお迎えがきてもいいというのが「尊厳ある死」ではないかと話しました。

最近、私の“最期を生きる十か条”のポスターがつくられましてね：（大きなポスターを取り出して）

長尾　はあ、すごいですね。

協会への新たな期待

を切り開いた黒田さんのボランティア活動のスピリットは次の時代を生きる若い世代に語り遺されて生きていくのです。

黒田さんは「いい言葉ね、書いておいて」といい、私が書いた色紙をずーっと抱きしめていました。2日後に亡くなつたのですが、色紙は本人の希望でお棺に納められました。

長尾 協会への新たな期待

先ほどの「十の心得」は一人称ですが、二・五人称の視点からはどうなりますか。

長尾 尊厳死協会は公益財団をめざし、国民のために終末期医療を考える団体として更に羽ばたきたいと思っています。メッセージをいただければ。

柳田 協会の歴史を振り返ると、医療側も次第に終末期医療に目を向けるようになり、WHOの緩和ケアの方法論も確立した80年代に協会名も尊厳死となりました。尊厳死協会になつてから30余年の歩みは、人間の生と死を考え、啓発する母体として、しかも患者側が一番大切な最期の迎え方のメッセージを医療側に発信するモチベーションを与えた点で存在意義が大きかったです。

しても成し遂げ
本人の二トズます

を切り開いた黒田さんのボランティア活動のスピリットは次の時代を生きる若い世代に語り遺されて生きていくのです。

黒田さんは「いい言葉ね、書いておいて」といい、私が書いた色紙をず一つと抱きしめていました。2日後に亡くなつたのですが、色紙は本人の希望でお棺に納められました。

協会への新たな期待

長尾 先ほどの「十の心得」は一人称ですが、二・五人称の視点からはどうなりますか。

柳田 たとえば次の世代に遺すものにしても、成し遂げておきたいことでも本人のニーズはずつと固刊内です。ま

長尾 尊厳死協会は公益財団をめざし、国民のために終末期医療を考える団体として更に羽ばたきたいと思っています。メッセージをいただければ。

柳田 協会の歴史を振り返ると、医療側も次第に終末期医療に目を向けるようになり、WHOの緩和ケアの方法論も確立した80年代に協会名も尊厳死と変わりました。尊厳死協会になつてから30余年の歩みは、人間の生と死を考え、啓発する母体として、しかも患者側が一番大切な最期の迎え方のメッセージを医療側に発信するモチベーションを与えた点で存在意義が大きかつたと思います。

いまは医療側も患者のリビング・ウイルを自然に受け入れるような時代になりました。これからは死の迎え

野よう子
日本大震災
暖ソング
広まる。
での合唱

Memo1

歌「花は咲く」
作詞岩井俊二、作曲菅野よう子
(共に宮城県出身)。東日本大震災
から「明日へ」の復興支援ソング
としてNHKが放送して広まる。
全国の学校、職場、地域での合唱
で歌いつがれている。

JASRAC 出 1501937-501

Me

黒田裕子さん
阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長。阪神・淡路大震災を機に病院看護師から被災者支援ボランティア活動に転身、新しい取り組み方を切り開いた。東日本大震災でも宮城県気仙沼市の仮設住宅地で活動。
2014年9月24日死去、73歳。

一つ紹介しますと、がん末期で在宅の自営業者が死後は妻に店を継がせたの方がありました。そのためには棚卸、帳簿の整理、業者へのあいさつをすませたいが、3日かかる。末期もいいところでしたが、医師は「3日なら大丈夫」と支えました。医療者が患者の二一度を理解し、背中を押し、支えるのが二・五人称の視点だと思います。

も啓発する母体として期待されるのは歴史の必然ではないでしょうか。ぜひやつてほしいですね。

長尾 そうするとこの「十の心得」を広める団体になればということですね（笑い）。ユーモアを忘れない、何を遺さか、いいですね。

柳田 死を考えることは生きることを考えることに尽きます。